カントリーレポート
ボスニア・ヘルツェゴビナ

Dijana Tepsic

ボスニア・ヘルツェゴビナにおける ジェンダーコンセプト

- NGOの重要な役割、特に1995年の内戦終結後
- 2001年、国レベル／構成体レベルでジェンダー機構が確立
- 2003年、男女共同参画法が成立
- 2006－2010年ジェンダーアクションプランを採択
- ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止･根絶のための国家行動計画を、構成体および国レベルで採択
- ジェンダー機構は、政府機関および国内外のNGOや国際機関と連携して活動している

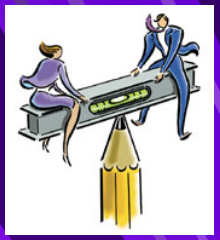
ジェンダーセンター
～スルプスカ共和国政府男女共同参画センター（構成体レベル）～

- 2001年12月に共和国政府の決定により設立された。このような組織を構成体レベルで設置することが、ボスニア・ヘルツェゴビナの欧州評議会加盟の条件の一つであった。スルプスカ共和国ジェンダーセンターの責務は 、女性の地位向上とモニタリング、および保障された権利の行使促進である。設立の目的は、男女共同参画の機構を確立し強化すること、法律・政策・戦略・プログラムを通じて、そして国内の法律やわが国が批准した国際条約・合意事項に準じて、スルプスカ共和国社会のあらゆる側面で男女共同参画を推進することである。

スルプスカ共和国ジェンダーセンターでの私の職務

- 広報担当官
- 職務内容：
  - 男女共同参画を担当する他の機構／メディア／NGO／市民／民間セクター／政府機関／海外のパートナーと共に、広報活動、連絡調整、教育・啓発活動を行う。
  - 男女共同参画法の実施を確認・促進し、現状把握、イニシアティブ／プログラム／政策／報告書／調査／広報誌を作成・立案する。
  - キャンペーンやイベント用のプロモーション資料を製作する。
  - メディア向け記事や説明文の執筆、新聞・雑誌に掲載された記事やコラムの収集
  - ホームページの作成と更新
  - スルプスカ共和国政府ジェンダーセンターの業務全般の推進。男女共同参画のコンセプトの普及、すべてのパートナー／組織／メディア／市民とのコミュニケーション促進。

わが国における
ジェンダーおよびジェンダー主流化の課題



- 法的仕組はあるが、
- 法律の実施は十分ではない。
- ジェンダー機構の組織力と機能の強化が必要。予算不足。
- 国家統治者、行政官、国民の意識啓発のさらなる促進が必要。
- 伝統的な価値観や型にはまった考え方が、生活のあらゆる側面でジェンダーの視点を取り入れることを阻んでいる。これに対する対策が必要だが、わが国は変革への備えができた社会にはまた到達していない。
- 現時点での優先順位：DV問題、女性に対する暴力、女性の政治および公的活動への参画、農村における女性の地位向上、雇用、仕事、あらゆるリソースへのアクセス、教育におけるジェンダー主流化、ジェンダー予算

スルプスカ共和国
DVの防止･根絶のための行動計画、キャンペーン、戦略2008/2009

- 「暴力のない家庭」キャンペーンは、スルプスカ共和国のDV防止･根絶のための行動計画の一環であった。この行動計画はスルプスカ共和国によって2007年7月に採択、2008年に施行された。
  その成果は:

- 暴力の被害者が注目され保護されるようになった。
- DVを深刻な社会問題、人権侵害と認識し、組織も個人もその問題に取り組まなければならない。
- 社会はこの問題を優先課題として政治的意志を示し、リソースを確保し、DV根絶のための横断的協調的アプローチを実践する義務がある。

- スルプスカ共和国ジェンダーセンターは、男女共同参画の政府組織として、この行動計画の採択のイニシアティブをとり、実践の調整役となった。
- パートナー: 共和国法務省、共和国内務省、共和国保健社会福祉省、共和国家庭青少年スポーツ省、共和国教育文化省
- この行動計画の採択は、国際的な義務に対する、共和国の直接的な貢献となった。また、ボスニア・ヘルツェゴビナにおける最初の文書である。
- 行動計画は国際機関(国連、ヨーロッパ評議会、EU等)による文書のガイドラインを利用して作成された。

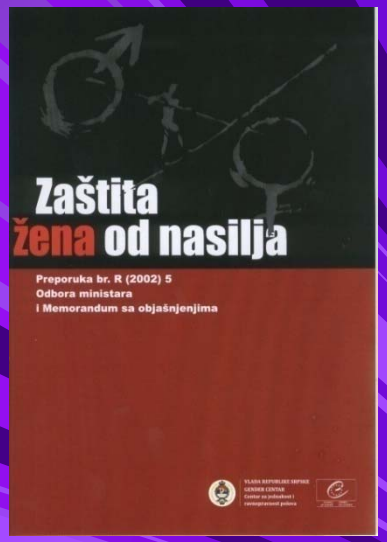
国家計画と「暴力のない家庭」キャンペーンの成果

- DVおよび女性に対する暴力について社会の行動が改善された。共和国は2008/2009年をDV根絶の年と宣言した。DVからの保護に関する事項を集約化し、被害者に対する人道的同情的なアプローチと連動させた。
- 暴力事件を徹底的に防止し、被害者支援と加害者の更正を可能にする対策を、適切かつ完全に行うための予算措置が史上初めて組み込まれた。

行政官、各種団体、被害者保護関連施設（保健施設、司法機関、警察、ソーシャルケアセンター、学校）を対象とした共和国ジェンダーセンターの意識啓発活動

- 全国的な「暴力のない家庭」キャンペーンは、メディア、文化、若者、学校等様々なレベルで、目に見える形で 素晴らしい成果を上げた。いろいろなグループを対象に、看板、ポスター、街の照明、パンフレット、ステッカー、Tシャツ、鉛筆、リーフレット、ビデオ、ベル、キャンペーンソングのCD等、プロモーション資料を作成した。プロモーション用資料は、共和国内の関連組織、NGO、学校、保健施設、ソーシャルケアセンター、メディアに配布された。

ヨーロッパ評議会の刊行物“The protection of women against violence（女性を暴力から守る）”- Recommendation No. R (2002) 5 of the Committee of Ministers and Explanatory Memorandum”を翻訳、印刷し、配布した。



domestic violence is a crime

Porodica bez nasilja

「暴力のない家庭」キャンペーンの付加価値

- キャンペーンとして準備された活動は、新たに参加を希望した人々に支援され、個人的な貢献によって拡大し、その成果は一層目覚ましく、効果的だった。共和国の有名なヒップホップ・ミュージシャンやR＆Bグループが“Nisam sama”(私は独りではない)という歌を作った。
- この歌は、DVと女性に対する暴力を歌ったもので、感情を強く揺さぶり、女性や暴力の被害者について語り、女性に向かって、強くなれ、より良い人生を選択せよ、暴力を通報せよ、と訴えている。
- この歌はキャンペーンのために使われ、メディアに支持された。新聞はこの歌やキャンペーンについての記事を掲載し、ラジオのヒットチャートに登場し、キャンペーンの成功に多大な貢献をした。そして、今でも知名度は高い。

Grupa SLUM i Dijana Teplac
Нисам сама
Породица без насиља

- 学校の生徒たちや若者たちも絵画や作文などの作品を制作してキャンペーンに参加した。 作品のテーマは「暴力のない家庭」で、キャンペーンに対するクリエイティブな貢献となった。共和国内の小中学校を対象に公開コンテストを開催し 優秀な絵画や作文に対して「暴力のない家庭」 賞を授与した。
- 以下はその受賞作品の一部である:

- メディア（ラジオ、テレビ、新聞雑誌、ホームページ）はそのスペースをキャンペーンのために割いてくれた。DVや女性に対する暴力に関する意識啓発について支援してくれた。また、その支援を適切な形で示し、深刻な社会問題として扱った。私たちはまた、“Nisam sama” (私は独りではない)のためのビデオを製作した。ビデオ製作では、有名な写真家アレクサンダー・アーセノビッチの作品を起用した。彼は、「女性に対する暴力」の写真版の作者であって、前述のミュージシャンたちとともにキャンペーンに貢献したいと申し出てくれた人物である。彼は、その写真をビデオ製作とキャンペーンのために無料で提供してくれた。

Акција Организације жена "Лара" у Бијељини

За породице без насиља

ФОТО: М. ЦВЈЕТИНОВИЋ

ПОДИЈЕЉЕН промотивни материјал

БИЈЕЉИНА - Уличном акцијом подијеле промотивног материјала активисткиње Организације жена "Лара" јуче су Бијељини започеле акцију "Породица без насиља", под покровитељством Центра за равноправност полова Републике Српске.

- Желимо на овај начин да популаришемо SOS телефон, чији је број 1264, позив је бесплатан, на који се жртве насиља могу јавити у било које доба дана и викендом. Наше волонтерке ће разговарати са жртвама насиља, наши адвокати могу дати правни савјет, а уколико се ради о озбиљнијем облику насиља, случајеве пријављујемо полицији, која излази ради увиђаја, а тужилаштво случај води по службеној дужности - каже потпредсједница "Ларе" Мара Радовановић.

У "Лари" тврде да је највећа грешка скривати насиље и очекивати да ће оно престати, јер искуство говори да насилник временом постаје још гори.

М. Ц.

Nezavisne novine Magazin
16.09.2008. Str. 5

Mag

Grupa "Slum" i Dijana Tepšić snimili novu pjesmu

Muzikom protiv nasilja u porodici

Pjesmu su ponudili na raspolaganje i korištenje u svrhu promocije u kampanji "Porodica bez nasilja", koja je u RS započela u avgustu

Jelena BABIĆ

Nakon velikih hitova "Još jedan korak" i "Ti imaš to sve" grupa "Slum & Dijana Tepšić" snimili su novu pjesmu "Nisam sama", koja govori o velikom društvenom problemu kao što su porodično nasilje i nasilje nad ženama.

Pjesmu su ponudili na raspolaganje i korištenje u svrhu promocije u kampanji "Porodica bez nasilja", koja je u Republici Srpskoj započela u avgustu.

Kampanja se provodi u okviru Akcionog plana za borbu protiv nasilja u porodici u RS.

"Ciljevi ove kampanje su višestruki i usmjereni su na djelovanje kako društva tako i pojedinca u sprečavanju nasilja u porodici, povećanje svijesti o nasilju u porodici kao društvenom problemu, unapređenje institucionalnog odgovora na nasilje u porodici, kao i stvaranje klime nulte tolerancije na nasilje u RS", kaže Tepšićeva.

U okviru kampanje kreirani su materijali za različite ciljne grupe kao što su posteri, bilbordi, informativni leci, naljepnice, majice, olovke, informativne brošure, video-spot i audio-džingl, te publikacija Savjeta Evrope "Preporuka (2002)5 Zaštita žena od nasilja".

"Materijali su distribuirani u cijeloj RS, opštinama, ustanovama, institucijama, školama i nevladinim organizacijama, koje će dalje dijeliti materijale. Osim toga, u toku je konkurs za osnovne i srednje škole za učeničke likovne i literarne radove na ovu temu", priča Tepšićeva.

Tekst pjesme "Nisam sama" potpisuju članovi "Sluma" i Dijana Tepšić

Tekst pjesme "Nisam sama" potpisuju članovi "Sluma", Mladen Marijanovic i Goran Vujičić, te Dijana Tepšić. Produkciju potpisuje poznati bh. R&B producent Haris Rahmanović a.k.a.

Ovih dana počela je i medijska promocija pjesme na radio stanicama.

Kampanja „Porodica bez nasilja"

nazovite 1264 Linija za pomoć žrtvama nasilja

Nasilje prema bližnjima je zločin!

„Bitno je naglasiti da žrtve nasilja mogu biti sigurne da će dobiti pomoć od nadležnih institucija i to je ono što, između ostalog, želimo poručiti ovom kampanjom" naglašavaju u Gender centru Vlade Republike Srpske

Dijana Tepšić i grupa Slum

Spomenka Krunić - direktorica Gender centra Vlade RS

Породица без насиља

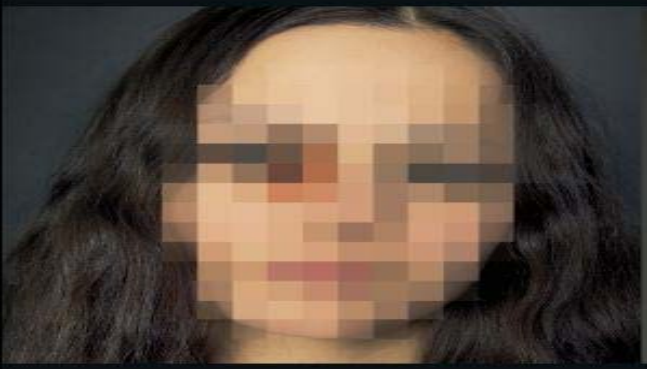
Piše: Suzana KVRGIĆ

Broj žrtava nasilja u porodici raste godine iz godine, a podizanje sa izgubljenim tempo sloboda pojedinca, prodaci na Mediteranu nakon i Mediterana, uvećavaju broj u porodici, ali i u ostalim oblicima nasilja u RS. Da bi se pomoćnik društvene svijesti o problemu porodičnog nasilja, Centar za ravnopravnost Vlade RS, uvedenim nepoznat, pokrenuli je kampanju „Porodica bez nasilja".

Najnovije žrtve nasilja u porodici su žene u brakorzu i drugim vanbračnim zajednicama, i to je evidentno u 85% slučajeva. To su, najčešće, žene u srednjim godinama (od četrdeset do 60 godina, prošlo su najdužinu života dva izvedbi 30 i 40 godina, prema statistikama Ministarstva, u RS je ovaj broj u zadnjih 181 nasilnik. Od toga u 146 njih nasilnici su suprugu ili bivši supružnik, a u 35 njihovi bivši ljubavnici.

Zvukovi je da se ovaj broj nasilnika u porodici u Bijeljini, u Prijedoru, u Doboju, u Banjaluci, u Trebinju, u Foči, u Zvornik, u Bijeljina, u Mrkonjić Gradu

Насиље
према ближњима
је злочин!



Република Српска - насиље у породици у 2007 • Телефон 1264 3.513 позива (98% Ж, 2% М). • Полиција: 464 пријављених дјела. • Правосуђе: 712 процесуираних случајева. • **Подаци Савјета Европе** • 1/5-1/4 свих жена су биле жртве неког облика физичког насиља. • Више од 1/10 жена је претрпјело сексуално насиље. • Трошкови породичног насиља: око 555 ЕУР по глави становника годишње. • **Процјене УН** • 113-200 милиона жена годишње демографски нестане. • Глобално, жене у доби 15-44 година чешће умиру као жртве насиља од стране мушкараца него од рака, маларије, саобраћајних несрећа и ратних дешавања.

Породица без насиља

ВЛАДА РЕПУБЛИКЕ СРПСКЕ | ГЕНДЕР ЦЕНТАР | МИНИСТАРСТВО ЗА ПОРОДИЦУ, ОМЛАДИНУ И СПОРТ | МИНИСТАРСТВО ЗДРАВЉА И СОЦИЈАЛНЕ ЗАШТИТЕ | МИНИСТАРСТВО УНУТРАШЊИХ ПОСЛОВА | МИНИСТАРСТВО ПРАВДЕ | МИНИСТАРСТВО ПРОСВЈЕТЕ И КУЛТУРЕ | UNFPA United Nations Population Fund

JICA研修で得た知識とスキル

- 他国の研修員からその国での経験や知識を得ることができた。
- 日本の専門家、大学教授、活動家、研究者から経験、知識、スキル、データを提供された。
- 日本や他国のデータ資料やパンフレットを入手できた。
- 研修中に行ったブレーンストーミングやワークショップが有益だった。

Taboo!

Special activity
Volvic

わが国におけるジェンダー主流化のためのアクションプラン

- **2009 – 2013年DV根絶のための国家戦略**
- 目標:
- わが国では、DVの防止・根絶のための行動計画が採択、実施されており、その推進に必要なツールと主要文書は完成している。
- この行動計画によって実施されている業務もあるが、低予算と経済危機の状況下、さらなる改善が必要である。
- DVに対する意識啓発が全国で実施されている。
- 私たちは今、DVのような深刻な社会問題に対して一層の努力をするにふさわしい出発点に立っている。

内　容

- 組織力の強化
- 被害者保護制度の改善
- DVに関するデータベースの構築
- 被害者保護施設（保健施設、ソーシャルケアセンター、学校、司法機関、警察）のための独自のマニュアル作り

期待される成果

- DVの防止・根絶への横断的なアプローチの実現
- DV被害者保護制度の改善
- 被害者保護施設の業務の活性化と業績の向上

- 男女共同参画の推進と意識啓発、女性の権利、ジェンダー主流化は私の個人的職業的使命である。
- 私のメッセージ：忍耐を持って、広い視野で、多様性を歓迎し、他人を型にはめようとせず、前向きに、積極的に、ジェンダーを考えよう。

Thank you

Dijana T

gender.pr@blic.net

Gender Center RS